

第五期国民議会指導部と フン・セン新内閣の 顔ぶれ

山田 裕史

Column

第五期国民

議会選挙の結果が
二〇一三年九月八日に
確定したことを受け、ノロ

ドム・シハモニー国王は同月三日、国民議会を招集するとともに、人民党のフン・セン副党首を首相に任命して組閣を命じた。大規模な不正があったとして救国党が選挙結果を認めず登院を拒否するなか、人民党議員のみが出席した国民議会は、翌二四日に国民議会指導部（議長、第一および第二副議長、九つの委員会の正副委員長）と内閣に相当する大臣会議を、賛成六八票、反対〇票の全会一致で承認した。

●当選者の特徴

六八議席を獲得した人民党は、選挙結果が確定するまでに当選者の大幅な入れ替えを行った。当選者二四人とその次点候補一〇人が

議員就任を辞退し、拘束名簿の下位に位置する候補が繰り上げ当選となったのである。辞退者計三四人のうち、二〇人は上級大臣や各省の大臣、首相補佐特命大臣として入閣し、他の辞退者も各省の長官や副長官に就任したり、上院や国軍の要職に復帰したりするなど、議員以外の役職に就いた。これは同党の議席数が九〇から六八へと減少するなか、より多くの党内調整の結果であると考えられる。

同党の初当選者には、首相の三男フン・マニー（三一歳）と副首相兼内務大臣の息子ソー・ソカー（三二歳）という若手の二世議員（いずれも繰り上げ当選）のほか、前プノンペン都知事のカエプ・チョテマーや首相実兄で前コンボン・チャーム州知事のフン・ネーンら、四月に知事職を退いた六〇歳代の六人が含まれている。

他方、救国党の当選者に入れ替えはなく、前職二三人が再選を果たした。また、元カンプチア人民革命党（人民党の前身）書記長で前人権党副党首のパエン・ソヴァンや、ロン・ノル政権下で文化大臣を務めたロン・ブッターら七〇歳代のベテランが政界復帰を果た

す一方で、サム・ランシー党のコン・コアム党首の息子二人を含む三〇歳代と四〇歳代の若手二六人が当選した。

当選者の平均年齢は、人民党が六一・三歳、救国党が五一・九歳である。人民党は六〇歳以上が七割を占めるのに対して、救国党は六〇歳未満が七割五分を占め、対照的な年齢構成となっている。

また、女性議員数は二五人（人民党一八人、救国党七人）で議員総数の二割にとどまり、カンボジアミレニアム開発目標に掲げる三割には届かなかった。

●国民議会指導部の人事

第五期国民議会指導部の構成は、表1に示したとおりである。なお、フン・セン首相は九月二四日、救国党が選挙結果を認めて登院すれば、副議長ポスト一つと委員長ポスト四つ、副委員長ポスト五つを同党に譲

表1 第5期国民議会指導部の構成（2013年9月24日発足）

役職	新任	名前 ⁽¹⁾	党常任委 ⁽²⁾	党中央委 ⁽³⁾	備考
国民議会議長		ヘン・サムリン	●	●	
国民議会第1副議長		グオン・ニャル	●	●	
国民議会第2副議長		クオン・ソダリー◆	●	●	
第1委員会委員長		ニャエム・タヴィー			
第2委員会委員長		チャム・イアブ	●	●	
第3委員会委員長	●	モック・マレート			前環境大臣
第4委員会委員長	●	フン・ネーン			前コンボン・チャーム州知事
第5委員会委員長		チアン・ヴン			
第6委員会委員長		パエン・パンニャー	●	●	
第7委員会委員長		モム・チュムファイ			
第8委員会委員長		ホー・ノーン◆			
第9委員会委員長		ヌン・サボン◆			
第1委員会副委員長	●	ソック・アイサーン			前第5委員会委員
第2委員会副委員長	●	アーイ・コーン			前第3委員会副委員長
第3委員会副委員長	●	フー・スリー			前第5委員会委員
第4委員会副委員長	●	カエプ・チョテマー			前プノンペン都知事
第5委員会副委員長	●	スオホ・ヤラー			前大臣会議官房副長官
第6委員会副委員長		スック・ブンホック			
第7委員会副委員長		ハム・コーン			
第8委員会副委員長	●	パル・ソムウアン			第4委員会副委員長
第9委員会副委員長		サオム・チャン			



写真①帰国直後のサム・ランシー党首（中央）（筆者撮影）

（出所）第5期国民議会議員名簿、2013年人民党臨時大会における党中央委員名簿をもとに筆者作成。

（注）（1）名前の後の◆は女性を示す。

（2）党常任委は、人民党中央委員会常任委員（＝党最高指導部）を示す。

（3）党中央委は、人民党中央委員を示す。



写真②人民党の政治集会で演説する首相長男のフン・マナエト中將（筆者撮影）

る用意がある旨を明言した。今後の交渉次第では、救国党も議会指導部ポストを獲得する可能性がある。

以下、議会指導部の構成について次の二点を指摘しておく。

第一に、ヘン・サムリン議長や副議長二人を含め、二人のうち一三人が再任された。特筆すべきは、前環境大臣、前コンポン・チャーム州知事、前プノンペン都知事といった有力党幹部や、三九歳の前大臣会議官房副長官が、初当選ながら議会指導部入りを果たした点である。

第二に、第四期国民議会と同様、人民党指導部の意向が国民議会指導部に対して確実に反映される人事となっている。すなわち、国民議会常任委員会を構成する二人（議長、第一および第二副議長、九つの委員会の委員長）のう

ち、一〇人が党中央委員（うち五人は党中央委員会常任委員）であり、党指導部と議会指導部の人的一体化がみられる。

●フン・セン新内閣の人事

フン・セン新内閣の大臣の顔ぶれは、表2に示したとおりである。なお、大臣会議官房に直属していた公務員庁が省に格上げされたことで、省庁の数は、大臣会議官房および二六省一庁となった。

以下、新内閣の構成について次の四点を指摘しておく。

第一に、一九九三年に現体制が成立して以来、初めて人民党単独内閣が発足した。フンシンベック党からの入閣者はいないが、前内閣で閣僚ポストを得たフンシンベック党などからの移籍者八人は留任した。これは移籍者を厚遇することで離党を予防するとともに、今後、野党幹部の人民党へのさらなる移籍を促す効果があるのではないかと推察できる。

第二に、内閣のポスト数は首相が一、副首相が九、上級大臣が一五（前内閣比一減）、各省大臣が二七（同一増）、首相補佐特命大臣が一三（同五増）、長官が一七九（同一九減）の計二四四（同一

四減）であり、前内閣発足時と比べて微減にとどまった。これはフンシンベック党の取り込みを目的として二〇〇四年の連立内閣発足時に増設された閣内ポストの大半が、人民党単独内閣となった現在もなお維持され、人民党員に広く分配されていることを意味する。

第三に、常任副首相の交代、上級大臣三人および首相補佐特命大臣七人の新任だけでなく、一〇省で大臣が交代する大規模な人事異動があった。①経済・財政省、②農林水産省、③教育・青年・スポーツ省、④環境省、⑤郵便・通信省、⑥文化・芸術省の大臣は、長官や政府副事務総長からの昇格である（①③⑥の大臣はいずれも経済・財政長官から昇格）。なお、交代した一〇省の前大臣は全員、上級大臣や他省の大臣、国民議会議員といった新たな要職に就いており、引退した者はいない。

また、退任した環境大臣、農林水産大臣、郵便・通信大臣はソック・アーン副首相兼大臣会議官房大臣と同じ選挙区であるほか、同氏所管の国家改革高等評議会とその下部機関などが相次いで解体され、関係省庁へ権限が委譲された。これにより多くの国家機関を

管轄してきたソック・アーンの影響力は低下するとともに、行政機構のスリム化によって諸改革の効率性は向上するものと思われる。

第四に、人民党中央委員会常任委員の息子を含む三〇歳代の若手が複数、入閣した。サーイ・チュム上院第一副議長の息子サーイ・ソムアル（三三歳）が環境大臣、ドゥット・モンティー最高裁判所長官の息子ドゥット・ティナー（三四歳）が商業長官に就任したほか、管見の限りでは、三〇歳代が一二人、二〇歳代が一人、各省の長官ポストを得た。海外で学位を取得した有能な若手を積極的に登用しようという、党指導部の意図が看取できる。

変革を掲げた救国党が党勢を拡大するなか、フン・セン首相は九月二五日の初閣議において、司法改革や汚職対策、公務員改革などの諸改革を深化させる決意を表明した。改革を求める国民の声はかつてないほど高まっており、人民党は今後も政権を維持しようとするのであれば、強い政治的意思をもって諸改革を断行しなければならぬ。

（やまだ ひろし／日本学術振興会特別研究員PD・東京大学）

表2 第5期カンボジア王国政府の構成⁽¹⁾ (2013年9月24日発足)

役職 ⁽²⁾	新任	名前 ⁽³⁾	国会議員 ⁽⁴⁾	党常任委 ⁽⁵⁾	党中央委 ⁽⁶⁾	備考
首相		フン・セン	●	●	●	
副首相		ソー・ケーン	●	●	●	
副首相		ソック・アーン	●	●	●	
副首相		ティア・パニユ	●	●	●	
副首相(常任)		キアト・チョン	●	●	●	前経済・財政大臣
副首相		ハオ・ナムホン	●	●	●	
副首相		マエン・ソムオーン◆	●	●	●	前副首相(常任)
副首相		ブン・チュン	●	●	●	
副首相		ユム・チャイリー	●	●	●	
副首相		カエ・クムヤーン	●	●	●	
上級大臣		ウム・チュンルム	×	●	●	
上級大臣		チャーイ・トーン	×	●	●	
上級大臣		チョーム・プロサット	×		●	
上級大臣(特別任務担当)		ニユム・ヴァンダー	×		●	
上級大臣(特別任務担当)		クン・ハン				元フンシンベック党
上級大臣(特別任務担当)		リー・トウイ				元フンシンベック党
上級大臣(特別任務担当)	●	チャン・サルン			●	前農林水産大臣
上級大臣		スン・チャントル	×			元フンシンベック党、カンボジア開発評議会常任副議長
上級大臣(特別任務担当)		アオム・ユンティアン			●	
上級大臣(特別任務担当)		イアン・ムーリー				元仏教自由民主党
上級大臣(特別任務担当)		ヴァー・クムホン			●	
上級大臣(特別任務担当)		ユム・ノルラー			●	
上級大臣(特別任務担当)		セライ・コソル				元フンシンベック党
上級大臣(特別任務担当)	●	フム・チャエム			●	前文化・芸術大臣
上級大臣(特別任務担当)	●	チュン・ブンシアン				前郵便・通信長官
大臣会議官房大臣■		ソック・アーン	●	●	●	
内務大臣■		ソー・ケーン	●	●	●	
国防大臣■		ティア・パニユ	●	●	●	
外務・国際協力大臣■		ハオ・ナムホン	●	●	●	
経済・財政大臣	●	オン・ポアンモニーロアト	×		●	前経済・財政長官、国家経済高等評議会議長
農林水産大臣	●	フック・ラブン	×	●	●	前経済・財政長官
地方開発大臣		チア・ソバラ	×		●	
商業大臣▲	●	スン・チャントル	×			元フンシンベック党、カンボジア開発評議会常任副議長
工鉱業・エネルギー大臣▲	●	チョーム・プロサット	×		●	前商業大臣
計画大臣▲		チャーイ・トーン	×		●	
教育・青年・スポーツ大臣	●	ホン・チュオンナロン		●		前経済・財政長官、国家経済高等評議会常任副議長
社会・退役軍人・青少年更生大臣	●	ヴォーン・ソート	×		●	前労働・職業訓練大臣
国土整備・都市化・建設大臣▲		ウム・チュンルム	×	●	●	
環境大臣	●	サーイ・ソムアル	×			前政府副事務総長
水資源・気象大臣		ルム・キアンハオ	×		●	
情報大臣		キアウ・カニャルット	×		●	
司法大臣		オン・ヴォーンヴァッタナー	×		●	
議会関係・監査大臣■		マエン・ソムオーン◆	●	●	●	
郵便・通信大臣	●	ブラク・ソコン	×		●	前大臣会議官房長官
保健大臣		モーム・ブンヘーン	×		●	
公共事業・運輸大臣		トラム・イーウトウック			●	
文化・芸術大臣	●	ブアン・サコナー◆				前教育・青年・スポーツ長官
観光大臣		タオン・コン	×		●	
儀典・宗教大臣		ムン・クン	×		●	
女性大臣		ウン・コンターパヴィー◆	×			元フンシンベック党
労働・職業訓練大臣	●	ウット・ソムヘーン	×		●	前社会・退役軍人・青少年更生大臣
公務員大臣		ペーチ・ブントウン			●	
首相補佐特命大臣		ホー・セツティ			●	首相官房長
首相補佐特命大臣		ソック・チェンダーサオピア			●	カンボジア開発評議会事務総長
首相補佐特命大臣		モーム・サルン			●	上院議長官房長
首相補佐特命大臣		スリー・タムルン				
首相補佐特命大臣		ガオ・ソヴァン				司法長官、元サム・ランシー党
首相補佐特命大臣		チアン・ヤナラー				カンボジア開発評議会副事務総長
首相補佐特命大臣	●	ドゥル・クアン	×		●	内務長官
首相補佐特命大臣	●	ユー・スンロン			●	公務員長官
首相補佐特命大臣	●	オースマーン・ハッサン			●	労働・職業訓練長官
首相補佐特命大臣	●	サオム・スアン			●	党中央委員会副官房長
首相補佐特命大臣	●	ソック・コント			●	地方開発銀行頭取
首相補佐特命大臣	●	ザカリヤ・アダーム				前コンダール州選出国民議会議員
首相補佐特命大臣	●	カウ・クムフォン				前外務長官
大臣会議附属民間航空長官		マウ・ハーヴァンナル				元フンシンベック党

(出所) 第5期王国政府閣僚名簿、第5期国民議会議員名簿、2013年人民党臨時大会における党中央委員名簿などをもとに筆者作成。

(注) (1) 大臣会議構成員には、大臣会議官房の長官16人と27省の長官162人も含まれるが、紙幅の関係上、割愛する。

(2) 役職の後の■は副首相を兼任、▲は上級大臣を兼任していることを示す。

(3) 名前の後の◆は女性を示す。

(4) 国会議員の後の●は第5期国民議会議員、×は当選または繰り上げ当選したが議員就任を辞退した者を示す。

(5) 党常任委は、人民党中央委員会常任委員(＝党最高指導部)を示す。

(6) 党中央委は、人民党中央委員を示す。